

平等にチャンスがめぐってくる!

熱戦に沸いたバンクーバー冬季五輪。その余韻に浸る間もなく、いよいよ6月にはサッカーワールドカップ・南アフリカ大会が開幕する。世界中が興奮の渦に包まれるスポーツの祭典が目白押し。今年2010年は、まさしくスポーツイヤー。日本国内も桜前線が一気に北上し、初夏の陽気が近づく今日。スポーツを思い切り楽しめるシーズンがやって来た。

スポーツの醍醐味はなんといっても爽快感。スポーツが好きなのはもちろん、苦手な人でも一度は味わったことがあるはず。でも実際のところ、人々を引き付けるスポーツは、私たちにとってどんな

意味があるのだろうか。

「目標に向かって日々努力するスポーツは、いわば『人生の縮図』と話すのは大阪大学大学院の岡田千あき准教授。その過程でコミュニケーション能力を身に付けたり、ルールを守りフェアプレーに徹することの大切さを学ぶのも、人生の教養の一つだ。「勝負を避けて通れない世の中で、勝ち上がっていくことやそのための努力の方法など、対人・対社会との関係を擬似的に体験できるのがスポーツです」。挫折もその後の人生に必ず役立っていく。

そしてこの経験を実社会で生かすことができれば、ルールや道徳規範に基づく活力に満ちた社会が自然と出来上がっていく。「健全な精神は健全な身体に宿る」というように、心身のバラ

スポーツの力

人間力を育むもう一つの現場

人生一度は、スポーツに魅了されたことがあるだろう。そう、スポーツには多くの人の心を引き付けてやまない無数の可能性が秘められているのだ。そしてこの10年の間に、人づくりや国づくりに有効だと注目され始めてきたスポーツ。その知られざるチカラとは。

編集協力：岡田千あき・大阪大学大学院人間科学研究科准教授



スポーツができること

- 1. 教育**
初・中等教育における心身のバランスのとれた発育や、青少年を取り巻く課題の解決にスポーツが広く活用されている。
- 2. 健康**
心身の健康の維持のみならず、人々が健康に対する興味・関心を持つきっかけとして期待されている。
- 3. 公衆衛生**
医療費の削減や衛生環境の改善など公衆衛生問題への包括的アプローチを可能にする。
- 4. HIV/エイズ**
HIV/エイズの予防教育、感染経路や症状に関する正しい知識の習得、エイズ発症者に対する偏見や差別の解消などがスポーツの場を活用して行われている。
- 5. 環境**
スポーツを通じて環境問題や生物多様性に関する啓発が行われている。特に、近年注目を集める「スポーツツーリズム」や自然資源の保護など開発分野との関係は深い。
- 6. 経済開発**
スポーツ用品の生産、インフラ整備、イベントの開催などスポーツ関連産業の発展が新たな雇用を生み、地域経済を活性化させることが期待されている。
- 7. 紛争解決**
紛争中・紛争後に被害を受けた人々が、スポーツという構造化された場に参加することにより、緊張や暴力、トラウマといった問題の緩和が期待されている。
- 8. 民主化教育**
民主主義の基盤となる他者への尊敬、寛容、公平などの考え方をスポーツから学び、紛争の解決法を共に見つけるための訓練の場となっている。
- 9. 難民・国内避難民**
スポーツを通じて難民・国内避難民へのケアを行うとともに、特に難民キャンプの多民族、多宗教、多言語の環境下における融和を目的とした活動が行われている。
- 10. 平和構築**
対立関係にある民族が互いを知る第一歩としてスポーツを通じた交流に期待が高まっている。
- 11. ジェンダー**
性別による差別や搾取、ハラスメントや暴力に対する問題意識の形成や課題解決を目指したスポーツ関連活動が行われている。

出典:United Nations (2005) "Report on the International Year of Sport and Physical Education"を参考に岡田改編。

スポーツはこんなふうに役立っている!

Bosnia and Herzegovina —紛争下の子どもたちの気晴らしに—
1992年から3年にも及んだボスニア・ヘルツェゴビナの内戦。市街戦で学校は閉鎖、家に閉じこもった生活の末に生まれたのは“another war” (もう一つの戦争)。ストレスのたまった暮らしの中で家庭内暴力が横行し

たのだ。これを危惧したある地方自治体は、特に外出が限られた子どもたちを対象にサッカーができる機会を提供。笑顔で思い切り芝の上を駆け抜けた子どもたちの表情はさすがにさそのものだったという。

Brazil & Namibia —国に勢いと誇りを—
いまや世界経済をけん引する新興国ブラジルから目が離せない。しかし、これ以前にブラジルの存在感を世に知らしめたのは、なんといってもサッカー。サッカー王国たるブラジルの勢いが経済成長を後押ししたという見方もあるほどだ。また、『Namibia on

the Map』(ナミビアを世界地図に)を合言葉に、2000年以降、スポーツ振興を通じて国のプレゼンスを高めようとするナミビア。ブラジルのように、スポーツが国民に誇りを与える手段となり得る。

ンスが取れた成長にスポーツは不可欠。その意味でスポーツには、生活の満足度(Quality of life)を高める効果もあるのです。
そして岡田さんは、スポーツに秘められたこんな可能性をも指摘する。「生まれ持った格差や境遇を一時的とはいえリセットできるのもスポーツのメリットです」。貧富の差が大きく、地域によっては差別的行為が数多く存在する開発途上国ほど、貧しい状況から抜け出したり、社会的な成功を取めたりすることは難しい。しかし、スポーツの世界で個人的な



バックグラウンドは関係ない。「ボールひとつで解決できることもあるんです」。誰にでも平等にチャンスがめぐってくると同時に、少しでも上を目指そうとすることで個人の参加意欲や自発性を引き出してくれる—それがスポーツなのだ。

貧困のない社会への第一歩

こうしたスポーツの優位性を国づくりに応用する国際的な動きは、ここ10年で高まってきている。きっかけとなったのは2000年、国連決議で「教育、健康、開発、平和を創造する手段としてのスポーツ」が採択されたこと。また、ミレニアム開発目標(MDGs)※を受け、「開発



元駐アメリカ大使
加藤良三・日本プロフェッショナル野球組織コミッショナーに聞く



「スポーツはセーフティネットの役割を担う」

日本のODA(政府開発援助)は、釣った魚をあげる援助ではなく、魚の釣り方を教え、人間という“資産”をその国に創り出すことを大切にしています。その中で、技術を磨いた人たちが将来、海外に出ていってしまわず、国内で活躍するための“セーフティネット”として、スポーツはその一翼を担うものだと考えています。草野球であれば老若男女、誰もが一緒に参加できる上、どんな状況でも必ず平等に順番が回ってくるものです。その喜びや楽しさを分け隔てなくみんなが享受できる社会があれば、きっとそれは良い社会となって、魅力ある国づくりにつながっていくと思います。
また、“人間学”を養う上でもスポーツが果たす役割は大きいでしょう。人間はもろくて弱い生き物です。そうした人間の弱さを律する枠組みの代表格がスポーツだと思うのです。スポーツで成功した人は、自分への自信を深め、責任感も強くなります。そして人格者となる場合が多い。ですから、自分の価値基準となる人間学を学ぶためにスポーツが重要になってくるのではないのでしょうか。

と平和のための「スポーツ」というレポーターも国連から発表された。以来、国連には事務総長付きで「スポーツ特任大使」が配置され、紛争・復興地域や貧困地域、難民キャンプなどでスポーツ活動を推進。カナダやノルウェー、オーストラリアなどの国々も「スポーツを通じた開発」に積極的に取り組んでいる。
現在、スポーツ分野の国際協力は400事業にも上る。具体的にどんな支援ができるかは、右下の「スポーツができること」を見てほしい。あまりに広範囲で驚くかもしれないが、スポーツにはそれだけの未知なる可能性が広がっているということだ。
その中で日本は、JICAボランティア

アの派遣や施設の建設・器材の供与などの直接的なスポーツ協力に加え、教育や平和構築・民族融和などを目的とした支援の中でスポーツを有効に活用している。「しかし、日本の協力はまだまだ少ない。成果が見えづらいという指摘もあります。スポーツが途上国の発展や国づくりに貢献している例もあり。だから日本としても、もっと体系立てて協力を臨む必要があると思います」。

個人、集団、社会、国。どの段階においても、人間が意欲と自信と誇りを持って目標に向かう—その姿勢こそが、希望ある国づくり、貧困のない社会への第一歩なのかもしれない。